

「高校生活まなびサポート(まなサポ)」とは？

経済的・生活上困難な状況にある世帯の子どもが、高校などへの入学、高校就学時の生活、まなび*を経済的不安なく過ごし、自分らしい進路選択ができることを支えるための**継続型給付金事業**です。

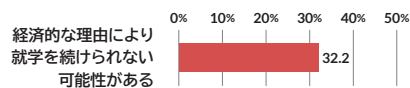
2022年12月から、宮城県石巻市に在住する中学校3年生から高校生を対象に行っています。給付決定から高校卒業時まで月額2万円、中学校・高校の卒業時には一時金を給付します。

*学習や就学に限らず、課外活動、スポーツ・文化・芸術活動など広くとらえるため、「学び」ではなく「まなび」としています。

2022年度に36人が利用を開始し、2023年10月時点で、卒業生を除いた33人が利用しています。給付金を提供するほか、インタビューやアンケートなどを実施し継続的なサポートを行っています。

活動を通じて把握した子どもや子育て世帯の状況を社会啓発・政策提言などに活用し、すべての子どもたちのまなびの環境や生活をより良くする施策の実現を目指します。

「高校生活まなびサポート」実施の経緯



(「セーブ・ザ・チルドレン 子ども給付金 新入学サポート・高校生活サポート2021 利用者アンケート調査結果」)

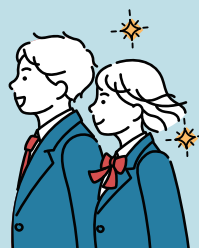
日本では、経済協力開発機構(OECD)加盟諸国に比べ、教育に占める公的支出の割合が低く、子どもや子育て世帯に対する社会保障が十分ではない状況があります。2021年にセーブ・ザ・チ

ルドレンが石巻市を含む東北地域で実施した調査では、**32.2%**が「**経済的な理由により高校就学を続けられない可能性がある**」と回答しました。

そこで、主に中高生世代がいる子育て世帯の経済的負担を軽減し、子どもたちが安心してまなび、自分らしい進路をかなえられるよう、継続型給付金事業を開始しました。

担当者の声

子どもには、まなび、友だちと過ごしたり、こころや体を十分に成長させる権利があります。「まなサポ」で出会った子どもたちは、やりたいことがたくさんありました。経済的状況などで自分らしい選択をあきらめることがないよう、今後も子どもたちの気持ちに寄り添い、子どもたちの今と未来を応援していきます。



公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

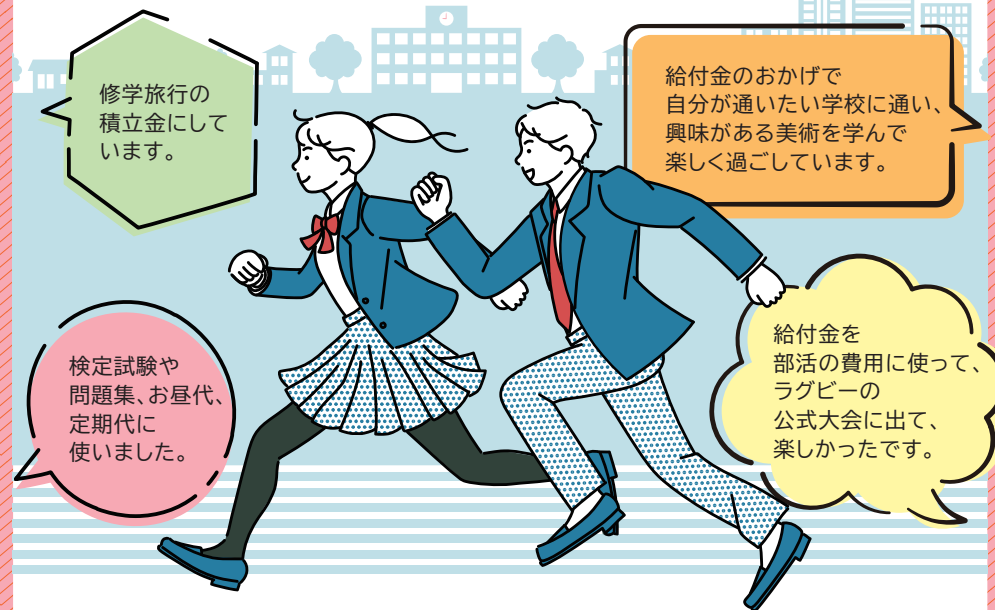
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F
03-6859-0398 japan.soap@savethechildren.org



高校生活まなびサポート通信Vol.1 2023年12月発行

子どもたちの 今と未来を 支えるために

～セーブ・ザ・チルドレン継続型給付金利用者の声～



※給付金の使い道について子どもたちの声を抜粋・編集

「高校生活まなびサポート(まなサポ)」は、経済的な状況に左右されず、子どもたちがまなびを安心して受けられるよう、継続型給付金事業です。通信を通して、自分らしく歩みを進める子どもたちの今を伝えます(年1回発行予定)。



まなサポが支える子どもたちのストーリー

※子どもと保護者へのインタビューやアンケート内容から構成しています。
プロフィールは、現在の学年、家族の人数、子どもについて。個人が特定されないよう一部内容を変更している場合があります。

Aさん

高校1年生
家族：4人
趣味：ビーズクラフト



経済的不安なく学校生活を送り、進学を目指して

Aさんのお父さんは体調が悪く、4年前から週に3回通院が必要な状況が続いています。お母さんは、病院の送迎などお父さんの介護をしており、家計は厳しい状態であり、家計は厳しい状態が続いていました。Aさんは、家の経済状況を気にして、参考書を買うことを我慢していましたが、自分で勉強を進め、目標としていた高校に進学しました。お母さんは費用の心配から、Aさんがどんな部活に入るのか気になっ

ていました。「まなサポ」を利用することが決まって、お母さんはAさんに「好きな部活に入っていいよ」と伝えました。Aさんは、体験入部で気に入った部活に入り、新人戦に向けて練習に励んでいます。いつもきょうだいのおさがりの服を着ていましたが、今は新しい制服のシャツを着ています。これからは、大学進学を目指して、給付金を使って参考書を買いたいと話しています。

Bさん

高校1年生
家族：3人
好きな教科：数学と理科



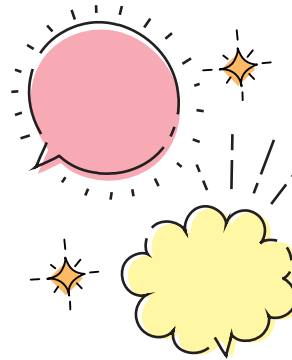
必要なものを我慢しなくて良い、気持ちも前向きに

Bさんは小学生のときにお父さんを亡くし、それ以来、一人で自分を育てているお母さんを心配し、負担をかけたくないと思っていました。おばあさんの介護も担い、周りから慕われているBさんですが、反抗期もなく、文句も言わない様子にお母さんは心配していました。そんな中、学校で「まなサポ」のことを知り、「利用したい」と自分でお母さんに掛け合ったBさん。利用が決

まり、Bさんもお母さんも安心しました。Bさんは、給付金を運動部の用具代に使っています。これまで、ぼろぼろになるまで道具を使っていましたが、今では必要なときに必要なものを買うことができました。「まなサポ」を通じて、多くの人の応援を感じているというBさん親子。Bさんは、勉強も部活も頑張りたいと話しています。

Cさん

高校2年生
家族：4人
好きな食べ物：牛丼



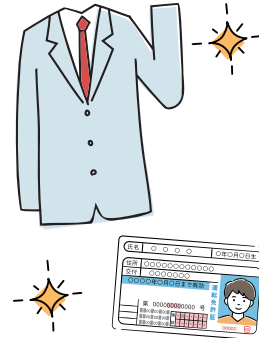
「まなサポ」による親子関係の変化

10年くらい前にお母さんが交通事故に遭ってから、家族の生活は一変しました。お母さんはこころも体も余裕がなく、お父さんはお母さんにつきっきりのため仕事に行けず、経済的にも厳しい状況が続き、Cさんは欲しいものを我慢していました。お父さんは、Cさんにやりたいことをやらせてあげられずに申し訳ないと思っている中で、「まなサポ」のチラシを見つけました。Cさんの通う高校は私服通学のため、通学時に同じ服

を着ることが多かったですが、給付金を利用し、身だしなみにも気を遣うことができるようになりました。これまでは、お金を計画的に使う余裕がありませんでしたが、今は給付金を使って何をしようかと前向きに目標を考えています。また、費用がかかると心配して友だちとの外出を我慢することもありましたが、今は友だちと楽しく出かけることもできています。何よりも、親子の会話が増えました。

Dさん

高校3年生
家族：2人
好きなこと：サッカー



家族の介護をしながら、就職に向けて

Dさんは、放課後や休日のほぼ毎日、近くに住むおばあさんの自宅に通い、介護をしています。就職に必要な車の免許を取るために、空いた時間はアルバイトをして自分で費用を工面しようとしています。お母さんと意見が合わないこともありますが、家計の負担を減らそうとアルバイトをしたり、洗濯や掃除などの家事を手伝ったりしています。誰にでも心配りができるDさんは、誰かが困っ

ていたら自然と手を差し伸べるので、周りの大人からも信頼されています。「まなサポ」の利用が決まって少し気持ちが楽になったというDさん。給付金は、通学費や、就職活動に向けたスーツとワイシャツの購入に活用しました。給付金の残りは就職に向けて車の免許を取るために使う予定です。希望する分野で就職して、新たな一歩を踏み出そうとしています。